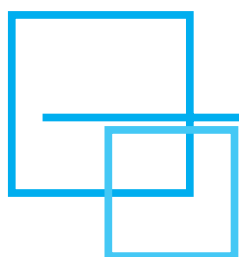


資料編



1 地域の特性

(1) 位置

山口市は山口県の中央部に位置し、防府市、周南市、萩市、宇部市、阿東町など4市3町と接して東西約43km、南北約44kmの広がりを持ち、面積約730平方kmを有しています。

(2) 歴史

本市には、旧石器、縄文、弥生、古墳時代の遺跡が数多く見られ、早くから人々が生活を営んでいたことがうかがえます。

古墳時代には、瀬戸内海の遠浅の地形を利用し、秋穂地区から秋穂二島地区にかけての海岸で、塩づくりが盛んに行われていたことがわかっています。

奈良時代半ばから平安時代前期には、陶地区から小郡地区百谷にかけて、須恵器を焼く窯が多く築かれました。また、陶・鑄銭司地区に官銭を鑄造する役所である鑄銭司が設置され、8種の銭貨を鑄造していました。

平安時代の終わり頃には、焼失した東大寺を再建するため、俊乗坊重源が周防国へ下向し、使用する木材を徳地地区で確保するため、大規模な森林開発を行ったことが記録に残っています。

平安時代以降中世になると特色のある地域文化が形成され、その担い手である大内氏の台頭が顕著になりました。大内氏第24代弘世は正平15年(1369年)のころ、山口盆地に居館を移し、京都に模した街づくりを行ったといわれています。以来、大内氏は約190年間山口を本拠地として、現在の福岡、広島、島根、近畿の一部までも支配し、対明、対鮮交易によって巨大な富を得て、繁栄するに従い、山口は政治、経済、文化の中心地として、西日本一のにぎわいをみせました。また、当時の小郡地区においては山口の外港としての機能を有していました。

大内氏は京文化を移入することに大変熱心であり、特に応仁の乱のころ、衰退した京都を避けて政治、社会の安定していた山口に多くの文化人が訪れ、さらに海外交易によって異国文化が入ってきたことにより、華やかな文化が咲き誇りました。

しかしこのように栄華を誇った山口も、天文20年(1551年)大内氏の家臣陶隆房の反乱によって、その盛衰の運命を大内氏とともにし、その後毛利氏へと支配が移りました。

江戸時代には、小郡地区の津市には、勘場(代官所)が置かれ、小郡宰判の中心として、また山陽道の宿場町として大いに栄えました。また、阿知須地区では廻船業が栄え、阿知須浦には防火を目的とした居蔵造の町並みが形成されました。

江戸時代の終わり、文久3年(1863年)藩主毛利敬親が藩庁を萩から山口に移したことにより、政治の表舞台に登場することとなりました。

明治維新後は、藩庁を引き続き県庁として使用することとなったため、県庁所在地となり県政の中心地としての役割を担うこととなりました。

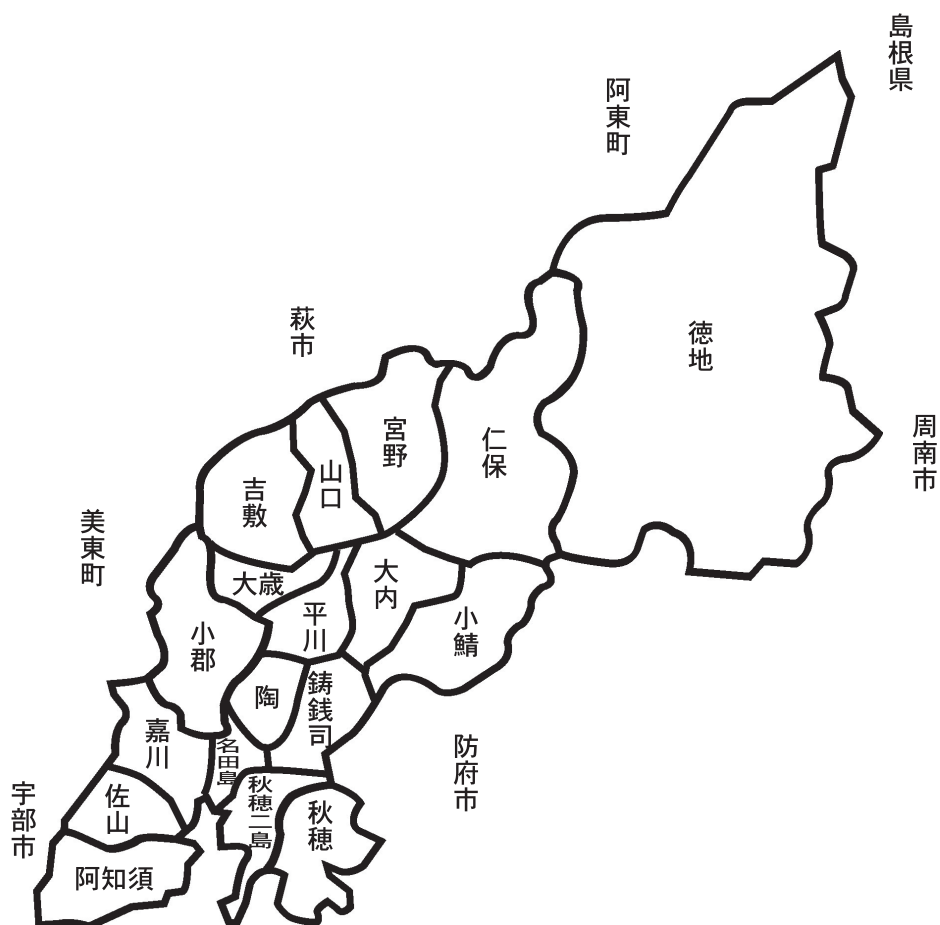
(3) 市域の移りかわり

明治22年(1899年)町村制の実施により生まれた山口町は、昭和4年(1929年)には吉敷村と合併し市制を施行しました。小郡町は明治34年(1901年)に、秋穂町、阿知須町は昭和15年(1940年)に町制を施行しました。

山口市は昭和16年(1941年)には宮野村と合併し、さらに昭和19年(1944年)小郡、阿知須の2町、平川、大歳、陶、名田島、秋穂二島、嘉川、佐山の7村と合併し、新たな山口市を形成しました。昭和22年(1947年)に阿知須町、昭和24年(1949年)に小郡町が分離しましたが、昭和31年(1956年)に鑄銭司村、昭和38年(1963年)に大内町(前身：旧大内村、旧仁保村、旧小鯖村)が合併しました。

徳地町は、昭和30年(1955年)、出雲村、八坂村、柚野村、島地村、串村の5村が合併して町制を施行しました。

そして平成17年(2005年)10月1日、山口市、小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の合併により新「山口市」が誕生しました。



(4) 都市機能

本市は山口県の県庁所在地であり、これまで行政、教育、文化の中心的役割を果たしてきました。

県庁や国の行政機関、山口大学、山口県立大学、山口学芸大学等の高等教育機関、美術館や博物館、山口情報芸術センターをはじめとする文化施設が集積しています。

また、総合病院や福祉施設、大型商業施設の立地により日常生活面においても近隣市町との結びつきが深くなっています。

さらに、広域・高速交通網が東西南北に走り、県内の主要都市に1時間以内で移動できるとともに高速自動車道や山陽新幹線、山口宇部空港への接続がよく、広域交流の拠点としての優位性をもつ立地となっています。

(5) 産業構造

本市の産業構造を市内総生産の産業別にみると、サービス業、卸売・小売業、運輸・通信業を中心とした第3次産業が主要産業となっています。また、県庁所在地であることや国の出先機関が立地していることから、政府サービス生産者の割合が高いのも特徴的です。

市内総生産額は第3次産業の増加が見られる一方で、第1次産業や第2次産業の減少が続いています。



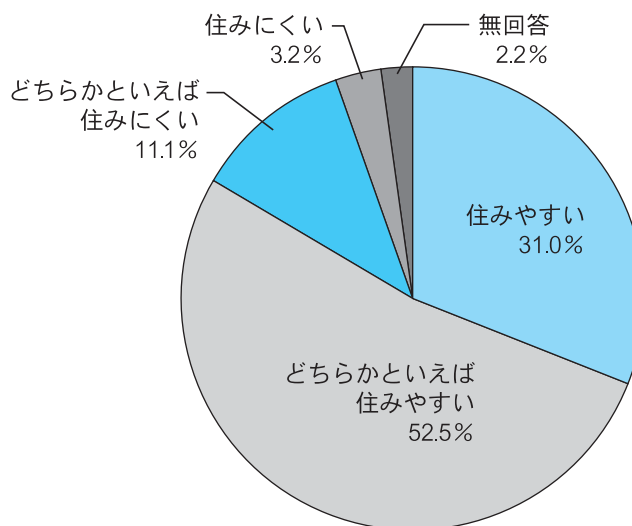
2 市民意識 —総合計画策定等に係る市民意識調査— (抜粋)

平成18年2月実施

(1) 8割以上の市民が「山口市は住みやすい」と感じています。

Q. お住まいの地域は住みやすいと思いますか。(回答者数 2,168人)

この設問に「住みやすい」(31.0%)、「どちらかといえば住みやすい」(52.5%)を合わせて83.5%の市民が山口市は住みやすいと回答しました。



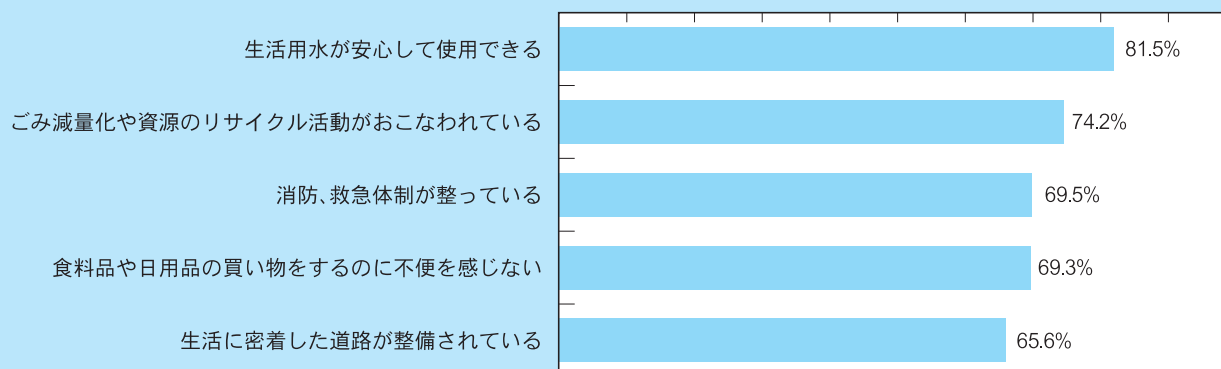
(2) 生活用水、ごみ減量化・資源リサイクル活動を評価しています。一方、公共交通、防犯対策は低い評価となっています。

Q. お住まいの地域についてどのように感じていますか。(回答者数 2,168人)

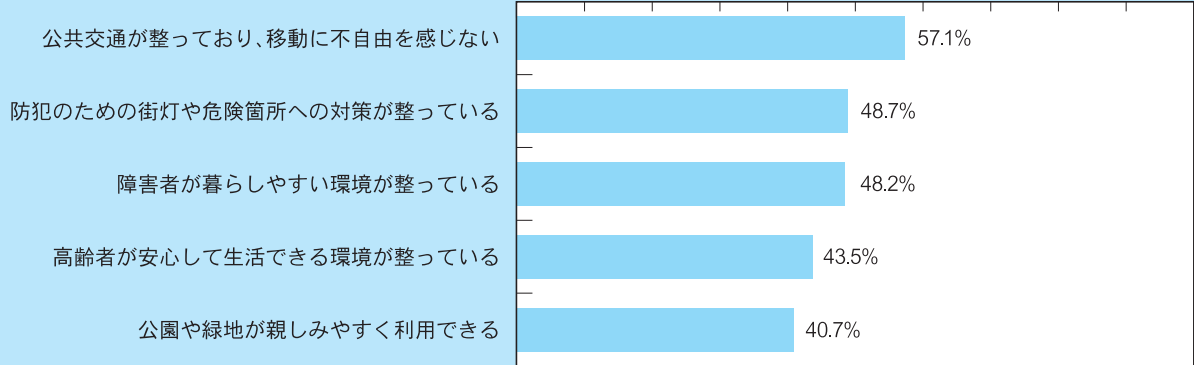
この設問で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答が多かった項目が「生活用水を安心して使用できる」(81.5%)、「ごみ減量化や資源のリサイクル活動がおこなわれている」(74.2%)などでした。

一方「公共交通が整っており、移動に不自由を感じない」「防犯のための街灯や危険箇所への対策が整っている」の回答がそれぞれ57.1%、48.7%と低い評価となりました。

評価の高い項目



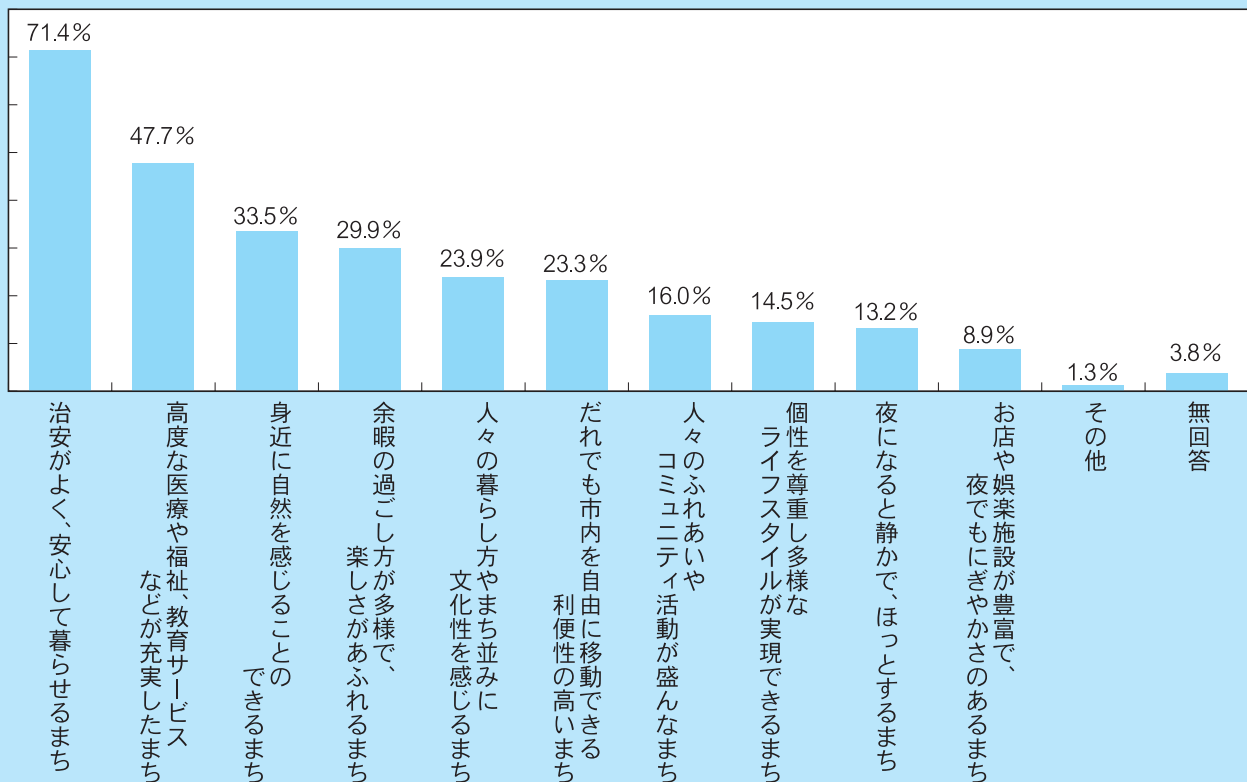
評価の低い項目



(3) 住んでみたいまちの姿は「治安がよく安心して暮らせるまち」が最も多くなりました。

Q. 住んでみたいまちの姿を選んでください。【複数回答3つまで：(回答者数 2,168人)】

この設問では「治安がよく、安心して暮らせるまち」(71.4%)は最も多く、次いで「高度な医療や福祉、教育サービスなどが充実したまち」(47.7%)、「身近に自然を感じることでできるまち」(33.5%)でした。

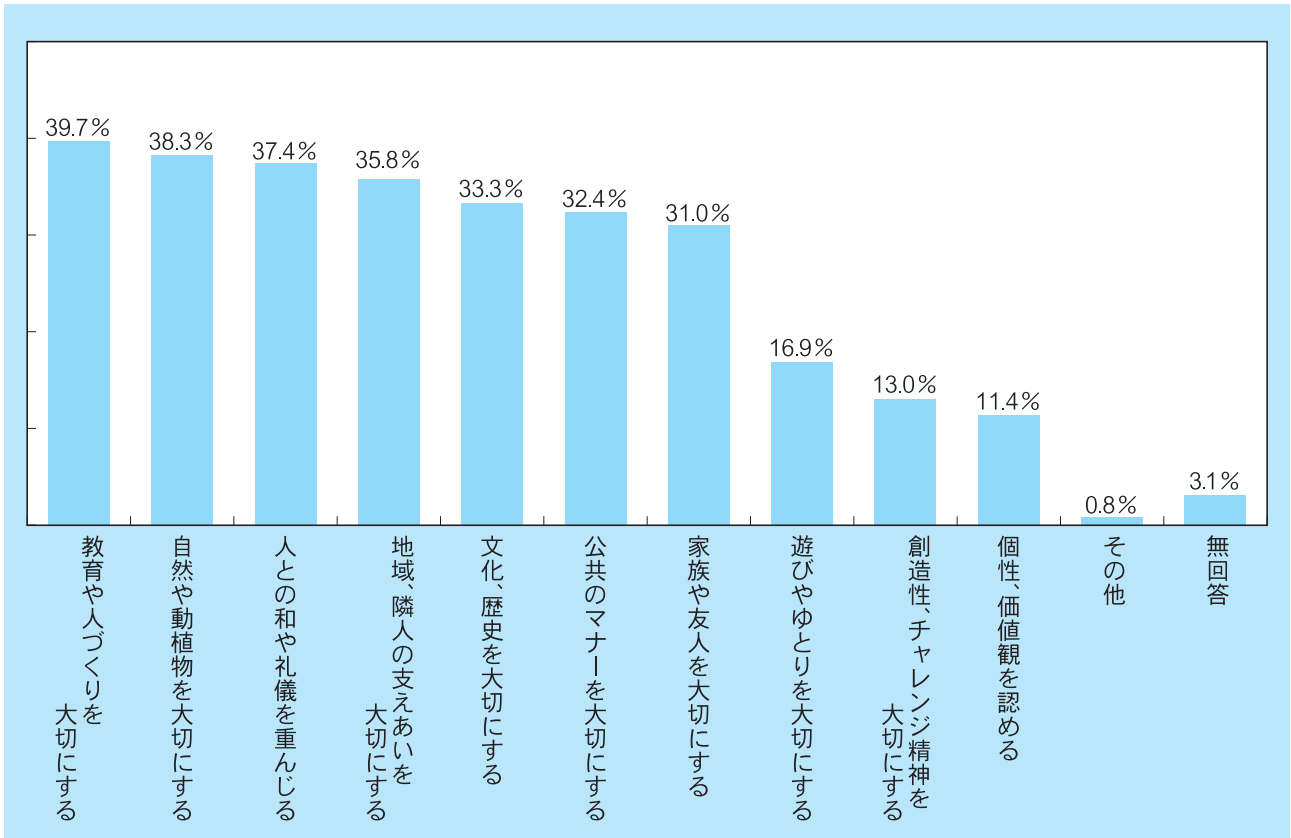


(4) 伸ばしていきたい市民性は「教育やひとづくりを大切にする」が最も多くなりました。

Q. これから伸ばしていきたい山口市の市民性は何ですか。

【複数回答3つまで：(回答者数 2,168人)】

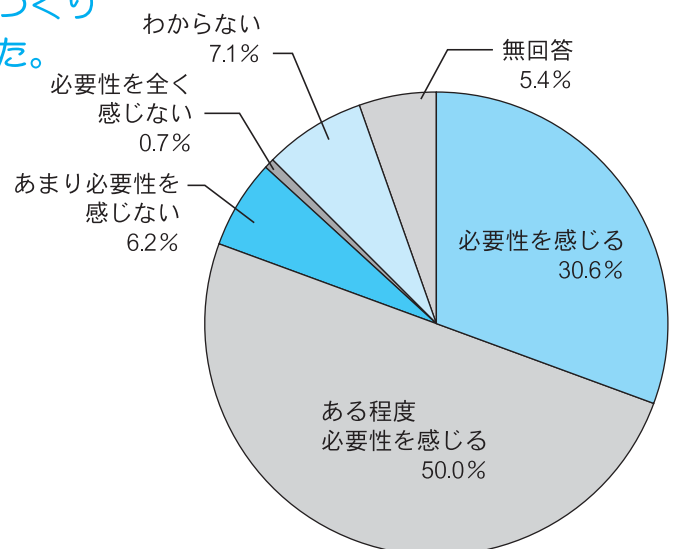
この設問では「教育や人づくりを大切にする」(39.7%)が最も多く、次いで「自然や動植物を大切にする」(38.3%)、「人との和や礼儀を重んじる」(37.4%)でした。



(5) 8割の市民が「市民参画の仕組みづくりの必要性を感じる」と回答しました。

Q. 市民参画の仕組みづくりについて必要性を感じますか。(回答者数 2,168人)

この設問に「必要性を感じる」(30.6%)、「ある程度必要性を感じる」(50.0%)を合わせて80.6%の市民が市民参画の必要性を感じていると回答しました。



3 山口市総合計画策定協議会への諮問とその答申

○総合計画策定協議会への諮問

企第138号
平成18年9月4日
山口市総合計画策定協議会 会長 様
山口市長 渡辺 純 忠
山口市総合計画について(諮問)
山口市総合計画の策定に際し、「まちづくり構想」、
「まちづくり計画」に関し、下記に掲げる事項について
貴協議会の意見を求めます。

記

- 1 「まちづくり構想」案について
- 2 「まちづくり計画」案について

○総合計画策定協議会から市長への答申 (まちづくり構想案)

平成19年5月1日
山口市長 渡辺 純 忠 様
山口市総合計画策定協議会
会長 吉村 弘
山口市総合計画まちづくり構想について(答申)
平成17年10月に、1市4町の合併により新たなスタートを切った山口市は、早期に新しいまちとしての一体感を醸成し、各地域が持つ多様で多彩な特色を生かしつつ、まちづくりを行っていくことが非常に重要となっています。

また、山口市を取り巻く情勢は、世界規模での国際化の進展、人口構造や経済環境、ライフスタイルの変化等に加え、地方自治のあり方も大きな転換期を迎えており、こうした情勢がもたらす課題に的確に対応していくことが求められています。

こうした中で、本協議会は、平成18年9月4日に「山口市総合計画まちづくり構想」について諮問を受け、これまで7回の会議を開催し、慎重に審議を行ってまいりました。

審議の結果、本構想案に示されている、「まちづくりの基本的な方向」、「大きな時代背景」、「まちづくりの目標」、「まちづくりの方法」についての考え方や認識については、本協議会での議論を踏まえたものであり、また、市民意識調査、まちづくり意見募集、パブリック

コメント、各地域まちづくり審議会の意見などを広く取り入れており、概ね適切であると認めます。

なお、本市においては、まちの「歴史」に多くの市民が強い思いを寄せ、それに関連した主体的なまちづくりが行われている現状を踏まえ、第3章の「めざす10年後のまちの姿」については、「歴史が活かされている」ことについて、より強調した表現を望む意見が多くありましたので、これを踏まえた検討をお願いします。

構想案の中で、多くの市民が持っているまちへの願いや思いを、まちづくりの基本的な方向として見据え、「心豊かに暮らし続けることができるまちづくり」を進めていくとともに、まちとしての価値を創造することで「市民が誇りを感じるまちづくり」を進めることは、特に重要な視点であると考えます。こうした基本方向やめざす都市像を市民と行政がしっかりと共有することで、着実にまちづくりが進められていくことを期待します。

また、住民自治や協働によるまちづくり、成果志向型の自治体経営や計画的・効果的な施策の推進については、まちづくりを進める基盤となることから、積極的な姿勢で取り組まれることを期待します。

市におかれては、構想の実効性を高めるため、今後策定されるまちづくり計画及び実行計画を含めた新しい山口市総合計画を一貫性のあるものとし、その実現に鋭意努力されることを要望します。

○総合計画策定協議会から市長への答申 (まちづくり計画案)

平成19年5月29日
山口市長 渡辺 純 忠 様
山口市総合計画策定協議会
会長 吉村 弘
山口市総合計画まちづくり計画について(答申)

山口市総合計画まちづくり計画の役割は、めざす10年後のまちの姿「ひと、まち、歴史と自然が輝く 交流と創造のまち 山口」を実現していくため、各施策の成果目標やまちづくりの主体ごとの役割を明確にすることで、市民の主体的なまちづくりへの参画を促し、市民と

行政の協働のまちづくりを推進していくことにあります。

本協議会は平成18年9月4日に、山口市総合計画の策定にあたりまちづくり構想とまちづくり計画について諮問を受け、多くの議論を重ねて平成19年5月1日にまちづくり構想について答申を行ったところです。

まちづくり計画については、これまでのまちづくり構想での議論を踏まえ、3回の会議において慎重に審議を行ってまいりました。

審議の結果、本計画案に示されているそれぞれの施策や基本事業のねらい、成果指標とその目標値、施策をとりまく環境変化と課題に対する認識、まちづくりの主体ごとの役割については、本協議会での議論に加え、総合

計画策定市民会議での議論を踏まえたものであり、その内容についてはおおむね適切であると考えます。

今後はパブリックコメントの実施や各地域まちづくり審議会での議論を通して、引き続き市民意見を取り入れていかれることを期待します。

まちづくり計画に示された目標は、今後行政や市民、様々な主体が共に達成をめざしていくものであるため、計画の実施や評価にあたっては、まちづくりが誰にとっても身近なものとなるよう、わかりやすい説明と積極的な情報公開に努められるとともに、成果指標の一層の充実を図られることを要望します。

4 各地域まちづくり審議会への諮問とその答申

○各地域まちづくり審議会への諮問

- 山口地域 平成18年9月 4日
- 小郡地域 平成18年9月28日
- 秋穂地域 平成18年9月26日
- 阿知須地域 平成18年8月31日
- 徳地地域 平成18年9月22日

企第134号

平成18年()月()日

(各)地域まちづくり審議会 会長 様

山口市長 渡辺 純忠

山口市総合計画まちづくり構想について(諮問)

山口市まちづくり審議会条例(平成18年山口市条例第13号)第2条第1項第1号の規定により、山口市総合計画の策定に際し、基本構想にあたる「まちづくり構想」に関し、下記に掲げる事項について貴審議会の意見を求めます。

記

1 「まちづくり構想」案について

○各地域まちづくり審議会から市長への答申(抜粋)

- 山口地域まちづくり審議会

平成19年4月13日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市山口地域まちづくり審議会

会長 清水 春治

山口市総合計画まちづくり構想案について(答申)

平成18年9月4日付企第134号で諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

山口市のまちづくりの指針を定めるものとして概ね適切であると認めますが、以下のとおり意見を述べます。

なお、審議の過程における委員からの意見等については、下記のとおり集約したので尊重されたい。

(以下省略)

●小郡地域まちづくり審議会

平成19年4月13日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市小郡地域まちづくり審議会

会長 國安 克行

山口市総合計画まちづくり構想案について(答申)

平成18年9月4日付企第134号で諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

山口市のまちづくりの指針を定めるものとして概ね適切であると認めますが、以下のとおり意見を述べます。

(以下省略)

なお、答申の過程において出された意見について、下記のとおりとりまとめましたので、まちづくり構想にもとづく今後の行政運営にあたっては、十分留意されますよう要望します。

また、答申にあたり、本審議会の総意をもって、阿知須地域のまちづくりに関する意見を付帯して提出いたしますので、今後のまちづくり計画等の策定及び各種施策の決定に際しまして、特段の御配慮をいただきますようお願いいたします。(以下省略)

●秋穂地域まちづくり審議会

平成19年4月13日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市秋穂地域まちづくり審議会

会長 清水 泰英

山口市総合計画まちづくり構想案について(答申)

平成18年9月4日付企第134号で諮問のありましたこのことについて、下記のとおり答申します。

記

山口市のまちづくりの指針を定めるものとして概ね適切であると認めますが、以下のとおり意見を述べます。

(以下省略)

●徳地地域まちづくり審議会

平成19年4月13日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市徳地地域まちづくり審議会

会長 中川 啓三

山口市総合計画まちづくり構想案について(答申)

平成18年9月4日付企第134号で諮問のありましたこのことについて、当地域における現状や課題などを踏まえ、山口市がめざす新たなまちづくりの方向性について、慎重に審議をいたしました。

貴職から示された山口市総合計画まちづくり構想案は、旧1市4町で構成された合併協議会において策定された新市建設計画「新県都のまちづくり計画」の理念にあたる部分が引き継がれており、山口市の計画的なまちづくりの指針を定めるものとして、概ね妥当であると認めます。

なお、答申にあたり、本審議会の総意をもって、別紙のとおり付帯意見を提出いたしますので、今後の基本計画や実行計画の策定及び各種の政策・施策の決定に際しまして特段のご配慮をいただきますようお願いいたします。(以下省略)

●阿知須地域まちづくり審議会

平成19年4月13日

山口市長 渡辺 純忠 様

山口市阿知須地域まちづくり審議会

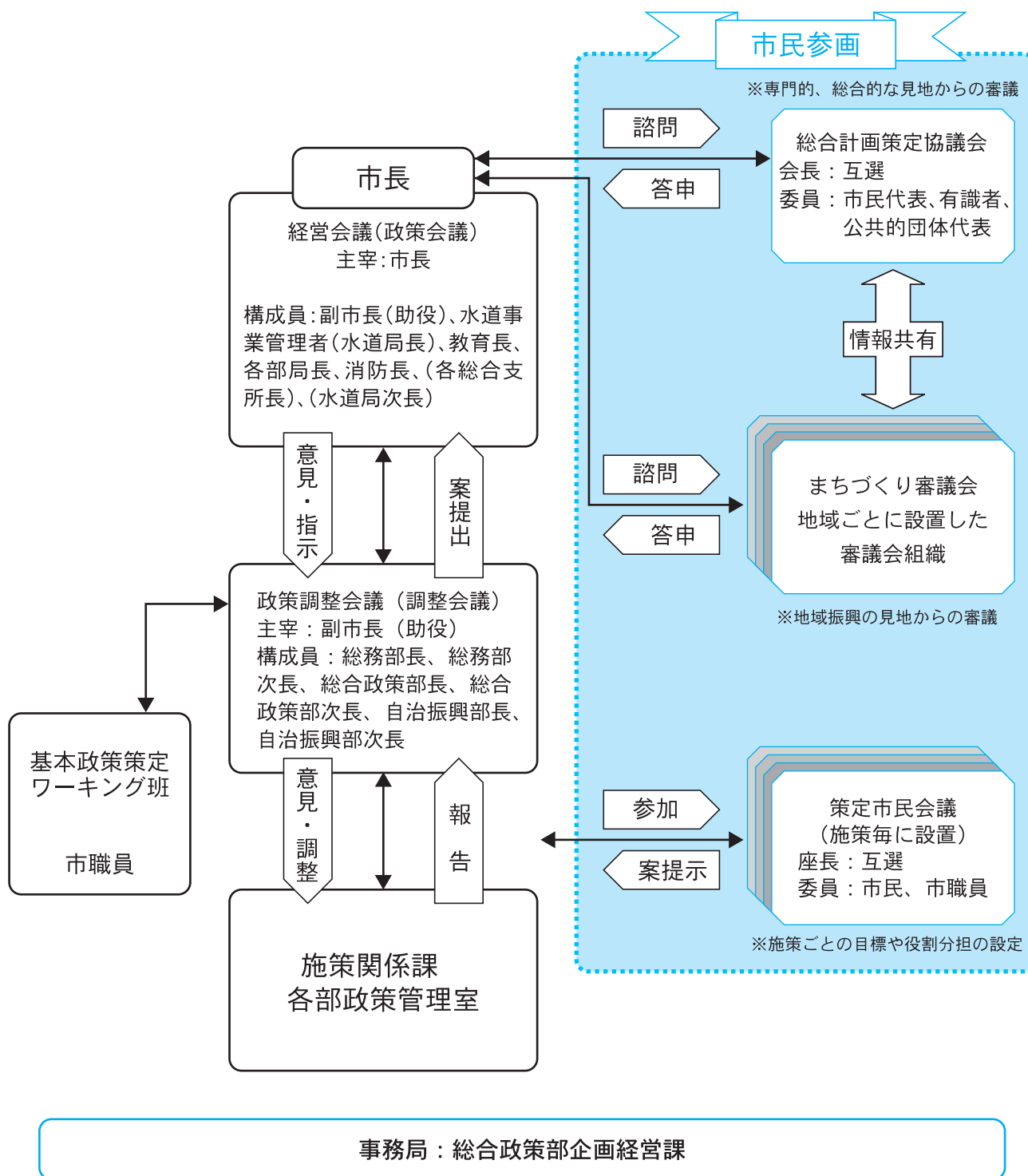
会長 飯田 宏史

山口市総合計画まちづくり構想案について(答申)

平成18年9月4日付企第134号で諮問のありましたこのことについて、当地域における現状や課題を踏まえ、山口市がめざす新たなまちづくりの方向性について、慎重に審議をいたしました。

貴職から示された山口市総合計画まちづくり構想案は、山口市の計画的なまちづくりの方針を定めるものとして、概ね妥当であると認めます。

5 策定体制



() 内は平成18年までの役職名および体制

6 山口市総合計画策定協議会委員名簿

(敬称略)

氏名	所属
会長 吉村 弘	北九州市立大学大学院
副会長 中野 勉	山口商工会議所
委員 赤星 香魚	山口市男女共同参画推進会議
鵜 心治	山口大学大学院
岩崎 喜美子	公募委員
大窪 寿子	山口市母親クラブ連絡協議会
小川 全夫	山口県立大学大学院
河野 俊貞	山口市体育協会
清水 春治	山口市自治会連合会
末永 洋三	山口市農業委員会

氏名	所属
委員 田中 義治	山口市子ども会育成連絡協議会
長安 典子	公募委員
中山 美穂子	公募委員
鍋山 祥子	山口大学
西 隆之	山口青年会議所
原 昌克	山口市社会福祉協議会
弘中 健一	公募委員
福田 礼輔	大内文化まちづくり協議会
前田 幸子	山口市環境審議会
山本 豊	公募委員

7 山口市総合計画策定市民会議委員名簿

(敬称略)

安心・安全なくらし 専門部会

氏名	
座長	伊東 修
座長代理	多田 宏之
委員	石井 利男
	岡村 基一郎
	新 喜美子
	古田 慶子
	村田 勝彦

環境と調和した都市づくり 専門部会

氏名	
座長	多田 真一郎
座長代理	杉本 理恵子
委員	上重 一枝
	豊田 政子
	福田 和子
	松永 和生
	松村 健

ひとづくり（教育、文化） 専門部会

氏名	
座長	小田 雅彦
座長代理	原田 章子
委員	内田 直美
	永久 明
	野々村 壽代
	堀 恒夫
	三隅 美奈子

元気で幸せなくらし 専門部会

氏名	
座長	中山 美穂子
座長代理	佐藤 博章
委員	神本 直樹
	工藤 三千代
	蔵成 智津子
	佐伯 泰子
	藤井 智香子

活力をもたらす産業づくり 専門部会

氏名	
座長	中村 伸一
座長代理	河本 真由美
委員	梅田 英明
	川村 幸江
	福江 香代子
	村上 正
	吉光 繁明

協働のまちづくりと 自治体経営専門部会

氏名	
座長	小山 哲彦
座長代理	高見 早苗
委員	堅田 雅子
	蔵重 千恵子
	首藤 久子
	多々良 健司
	藤好 悦子

8 各地域まちづくり審議会委員名簿

(敬称略)

山口地域まちづくり審議会

氏名	所属
会長 清水 春治	山口市自治会連合会
委員 渡邊 彰久	山口市自治会連合会
佐光 邦靖	山口市自治会連合会
前任者(野村 敏介)	(山口市自治会連合会)
長富 房子	山口市連合婦人会山口支部
山口 富美子	山口市連合婦人会山口支部
松永 君子	山口市連合婦人会山口支部
木原 久光	山口市社会福祉協議会
水上 義昭	山口市社会福祉協議会
久保 實	山口市社会福祉協議会

氏名	所属
委員 三浦 俊彦	山口市子ども育成連絡協議会山口支部
宮成 眞澄	山口市子ども育成連絡協議会山口支部
青木 美弥子	山口市女性会議
渡辺 洋子	山口せわやきネットワーク
小林 裕一	山口まちづくりセンター
曾田 元子	公募委員
平松 洋之介	公募委員
岩崎 喜美子	公募委員
中山 富士夫	公募委員
守屋 アツコ	公募委員

小郡地域まちづくり審議会

氏名	所属
会長 國安 克行	山口市小郡区区域長協議会
委員 山本 豊	山口市小郡区区域長協議会
益田 徳子	小郡女性団体連絡協議会
林 弘美	小郡女性団体連絡協議会
松谷 徹	吉南青年会議所
大平 和久	吉南青年会議所
竹内 美智子	小郡ボランティア連絡協議会
福井 敏彦	小郡商工振興会

氏名	所属
委員 横山 洋之	山口市子ども育成連絡協議会小郡支部
片山 淳	学識経験者
野村 聡美	公募委員
橋本 芳郎	公募委員
中島 裕一	公募委員
井本 芳正	公募委員
松永 輝雄	公募委員

秋穂地域まちづくり審議会

氏名	所属
会長 清水 泰英	秋穂区区域長会
委員 中村 保男	山口市青少年健全育成市民会議秋穂支部
渡邊 公智	山口中央農業協同組合
岡廣 幹夫	山口県漁協大海支店
小林 淑恵	秋穂女性団体連絡協議会
時乗 輝男	秋穂商工会
前任者(山下 篤志)	(秋穂商工会)
末繁 新也	山口市社会福祉協議会秋穂支部
山本 武義	学識経験者
前任者(三好 溥真)	(学識経験者)

氏名	所属
委員 山本 嘉男	学識経験者
前任者(緒方 甫)	(学識経験者)
牧 徹	学識経験者
福井 哲也	学識経験者
松田 典子	学識経験者
内田 直美	公募委員
原田 洋子	公募委員
安光 真裕美	公募委員

阿知須地域まちづくり審議会

氏名	所属
会長 飯田 宏史	山口市阿知須自治会連合会
委員 井上 恵子	山口市阿知須女性団体連絡協議会
河野 昌博	阿知須郷土史研究会
重田 孝子	人権擁護委員
福田 和子	阿知須体育振興会
藤井 宏三	山口市老人クラブ連合会阿知須支部
藤重 加代子	山口市母子保健推進協議会阿知須支部
藤田 晃三	引野同志会

氏名	所属
委員 山田 育子	阿知須町商工会
山本 貴広	山口市社会福祉協議会阿知須支部
上野 以志夫	学識経験者
高野 義一	学識経験者
国重 弘之	公募委員
山根 傅美子	公募委員
山田 好男	公募委員

徳地地域まちづくり審議会

氏名	所属
会長 中川 啓三	出雲地区自治会連絡協議会
委員 藤田 義正	島地地区自治会連絡協議会
波田 祐次	八坂地区自治会連絡協議会
國長 廣治	柚野地区自治会連絡協議会
福田 嘉夫	串地区自治会連絡協議会
森永 かず子	山口市徳地女性団体連絡協議会
斉藤 貴子	徳地地区小・中・高PTA連合会
林 正則	山口市社会福祉協議会徳地支部

氏名	所属
委員 新谷 義直	徳地商工会
板垣 幸男	学識経験者
坂本 昌穂	学識経験者 (H19.6.8辞任)
水津 征洋	学識経験者
浅村 久志	公募委員
粟屋 五鈴	公募委員
増田 久美子	公募委員